牛久市文化芸術振興審議会議事概要		日時	令和７年１２月２５日（木曜日）
件名	第３回 牛久市文化芸術振興審議会	場所 時間	中央生涯学習センター　中講座室 午前１０時～１１時３０分
作成年月日	令和８年１月４日（日曜日）	作成者	生涯学習課：鈴木

出席者	（出席委員）後藤雅宣会長、永井博委員、宮地正人委員、板東與實委員、上仲典子委員、宮本芳子委員（計６名） （欠席委員）齊藤泰嘉副会長、磯上朋子委員（計２名） （牛久市）　川村教育長、小川教育部長、髙橋次長 （事務局）　糸賀生涯学習課長、倉持課長補佐、鈴木主査、 ㈱フジヤマ(髙橋課長補佐、比津氏、長谷川課長補佐) （傍聴者）　０名 （順不同）
議事内容	・牛久市文化芸術推進基本計画の策定について

会　議　内　容　等

１．開　　会

２．議　　事

①「牛久市文化芸術推進基本計画の策定について」

(1)（事務局)前回審議会および審議会後に各委員から提出された提言に対する対応について説明

○12 ページ：牛久シャトーが市街地中央に位置する特性を活かすため「市民の憩いの場」「文化活動の拠点」に関する文言を追加した。

○14 ページ：文化芸術活動に関する記述に「これまで以上に求められている」の表現を追加し、重要性を強調した。

○14 ページ：市民文化祭参加状況のデータについて 2025 年度分を追加予定。

○15 ページ：専門人材の重要性を明確にするため、「文化芸術に関わる専門職員として積極的に配置することが重要」と修正した。

○16 ページ：施設活用の実効性を強調するため「既存施設の実効性のある活用」という表現に変更した。

○18 ページ：市の範疇を超える表現を避けるため「若手芸術家」を「文化芸術活動の担い手」に修正した。

○19 ページ：情報発信の緊急性を強調するため、会長の提言に基づき「SNS 等新たな情報ツールを開発」「広報の強化が急務の課題」等の表現を追加した。

○20-21 ページ：事業の緊急性を強調するため「事業の企画運営の強化が必要」「広報強化が急務」等の表現に修正した。

○22 ページ：具体的な施設整備の方向性を示すため「実態に見合った整理による大胆な改修と実効

的構想が不可欠」を追加した。

○24 ページ：複数の委員からの多文化共生に関する意見を踏まえ「多様化する文化を互いに理解できる環境の創出に努め」という文言を追加した。

○26-27 ページ：施設整備の具体性を高めるため「計画的に整備・運営」し「民間活力の導入も検討」など表現を修正した。

○28 ページ：具体的事業例として「出前授業」「アウトリーチ」を追加し、現代文化も含むことを示すため「伝統文化からアニメ等の現代文化まで」の表現を追加した。

○31 ページ：施設検討の具体性を高めるため「大胆な改修」「民間活力の導入も検討」を追加し、バリアフリーの観点から「ユニバーサルデザインの導入」を追加した。

○33 ページ：人材育成の重要性を示すため「人材の配置と育成に努める」を追加した。

○34 ページ：団体間の相互理解を促進するため「団体間の連携や共同企画により連携を深め、価値意識の許容に努め」の表現を追加した。

○36 ページ：広域的な視点を持つため「５　民間における連携」の項目を新たに追加し、「近隣市町村」との連携についても追加した。

(2) 質疑／応答など

〈1〉（委員）

31 ページの文化芸術施設という表題に対し「文化財施設」は限定的な表現ではないか。また、18 ページで「若手芸術家」を「文化芸術活動の担い手」に修正した一方で、28 ページでは「若手芸術家」という表現が残っている。後者は市の範疇を超える表現であり、一般市民に誤解を与える可能性があるため、「文化芸術活動の担い手」などに変更すべきではないか。

〈2〉（委員）

市民文化祭参加状況データについても 2025 年度まで反映すべき。文化協会以外の団体の活動状況も計画に反映すべき。文化活動全体を把握できる情報として、生涯学習センターの定期団体数等の情報掲載はどうか。

（事務局）

団体の登録状況について、様々な施設の利用団体を完全に把握するのは難しい。有料・無料の団体、減免団体なども様々ありすみ分けが難しいができるだけ拾い上げ出来る範囲で反映する意向である。

〈3〉（委員）

28 ページの「次世代を担う芸術家」について、「芸術愛好家」など芸術を鑑賞し楽しむ人も含む表現にすると良い。子供たちには芸術世界の入口を教える段階であり、専門家育成というより様々な世界があることを伝える意味で広く捉えるべき。学校教育との連携においても、芸術家だけでなく芸術を愛する人を広く巻き込む視点が必要と考える。

〈4〉（委員）

牛久を訪れる観光客向けの案内が分かりにくい。駅からエスカードの観光案内所へのアクセスや観光マップの提供方法等、訪問者が必要な情報を入手しやすい仕組みが必要と考える。

（事務局）

22 ページの「観光まちづくりとの連携」に「観光サインの充実」「観光マップの配置」等の内容を盛り込むことを検討する。

〈5〉（委員）

歴史・文化財に関する事業について、組織的に生涯学習から分離した文化財部門との今後の連携方法が計画に明記されていないが、明記しなくて良いのか。

（事務局）

計画は包括的なものであり、この計画を基に推進していく。

〈6〉（委員）

28 ページの「能楽ワークショップ」について、能楽以外のワークショップも行っている実績があるため、より広い表現にすべき。また、同ページの「芸術家」という表現については、希望的な意味を込めて残してはどうか。「芸術家・芸術愛好家・企画運営力のある人材」等の幅広い表現を追加するのはどうか。

〈7〉（教育長）

若者支援に関する記述が薄いとの認識。若者の文化芸術活動支援についてのヒントをいただきたい。

（委員）

若者支援において親世代の理解が重要。近年は自分の子どもが舞台の中心に立たないと満足しない保護者が増えており、体験型の活動の需要が高まっている。一方で鑑賞するだけの活動の価値も伝える必要性があり、両面のバランスを取る難しさがある。

（委員）

エスカードの２階で行われているピアノ演奏の事例等、人が集まる文化活動の場の効果的な活用について若い世代を巻き込む活動は重要である。高校生なども参加するようなイベントが若者の意識を高めるのに効果的であり、文化芸術への興味を広げるためには、新しい分野も積極的に取り込む柔軟な姿勢が必要と考える。

（教育長）

様々な意見を受け、若い世代との連携の模索が重要との認識。8 年計画の中間で見直しを行い、社会変化に対応していく意向である。目指す将来像はしっかり持ちつつ推進することが大切と考える。

〈8〉（教育長）

将来ビジョン不足の認識から、各委員に 8 年後の牛久の文化芸術の姿について意見をメールで募集したい。

② 「関係団体アンケート結果（速報）について」

(1)（事務局）関係団体アンケート結果（速報）ついて説明

○文化芸術関係団体（61 団体）に対してアンケートを実施

○回収率：59.6%（36 団体から回答）

○回答団体の構成年齢：60 代～80 代が中心（合計で約 60%）

○アンケート結果は、基本計画の巻末資料として団体数、構成人数、年齢層など基本的なデータを中心に抜粋して掲載予定

(2) 質疑／応答など

〈1〉（委員）

アンケート回答者の年代が高齢者に偏っているのではないか。若い世代の意見も吸い上げる工夫

が必要である。各団体に若い構成員からの回答も求めるべきと考える。

〈2〉（委員）

アンケート結果が文化芸術関係団体の総意であるかのような錯覚を与えないよう注意すべき。既存の市民満足度調査のデータも活用してはどうか。

（事務局）

次回のアンケートでは、より幅広い年代からの意見収集を検討している。

（フジヤマ）

市民満足度調査の結果は反映済みである。また、市民満足度調査の文化芸術活動に対する重要度が低いという結果が出ている。そのため、関心を高める取り組みが必要と考える。

〈3〉（委員）

高校生など若い世代の文化芸術活動の把握と意見収集が必要。文化祭などでの発表時に感想や意見を収集するシステムの導入はどうか。

③「今後のスケジュール等について」

(1)（事務局）38 ページの計画策定経過に沿って今後のスケジュールについて説明

〇意見を取りまとめた上で最終案を作成し、1 月にパブリックコメントを実施予定。

〇2 月中旬にパブリックコメントを取りまとめ、3 月中旬に第 4 回審議会で最終決定を行う予定。

〇牛久市文化芸術推進基本計画と並行して牛久市文化芸術基本条例改正も 3 月議会に上程予定。

〇1 月に総合教育会議を開催し、パブリックコメント前に教育委員会と市長が本計画について意見交換を行う予定。

〇9 ページの評価の仕組みについて説明。従来の審議会による事業評価方法を変更し、牛久市教育振興基本計画の PDCA サイクルに基づく評価方法に移行する予定。

３．閉　　会